



2026年3月期

決算説明会

2026年5月28日

証券コード：4997

東証プライム市場

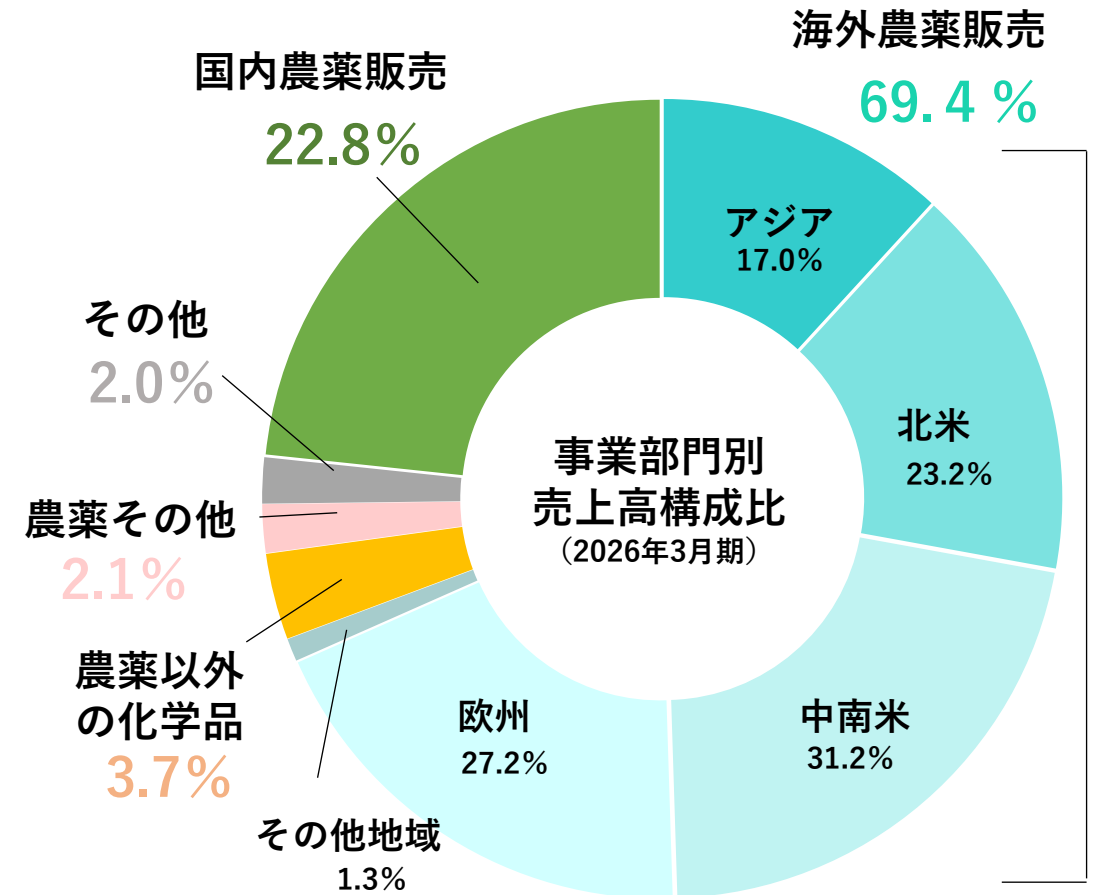


日本農薬の概要と農薬の有用性

NICHINO グループ基本理念

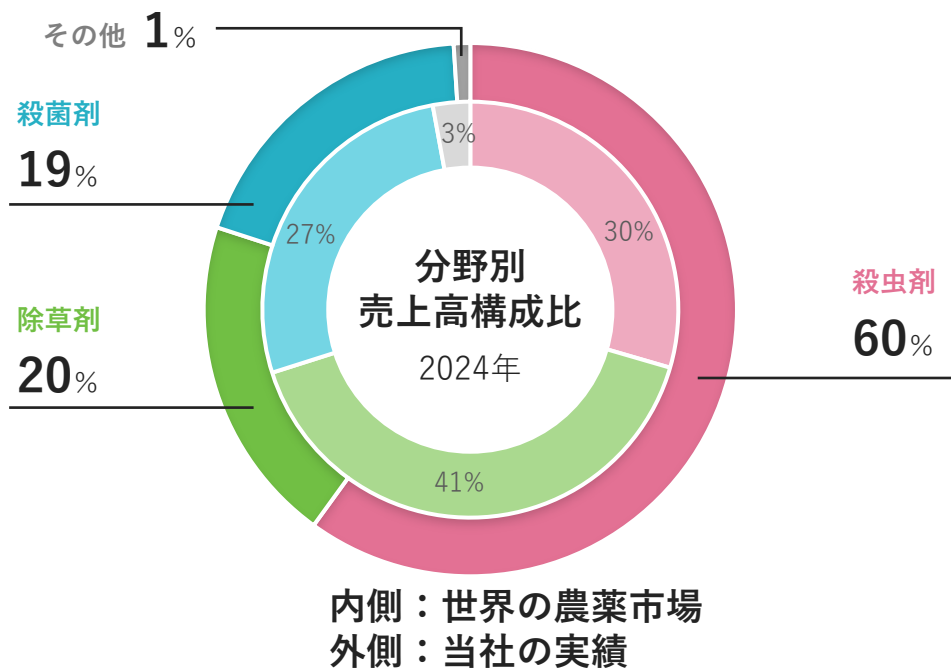
- 安全で安定的な食と豊かなくらしを守り、サステナブルな社会の実現に貢献します。
- 新たな価値の創造にチャレンジし、社会のニーズに応えます。
- 公正で活力ある企業活動により全てのステークホルダーの期待に応えます。

主な事業内容	農薬、医薬品、動物用医薬品、木材用薬品、農業資材などの製造業、輸出入業、販売業
創立	1928年（昭和3年）
資本金	14,939 百万円
売上高(連結)	111,822百万円
従業員数(連結)	1,527名
本社所在地	東京都中央区京橋
国内事業所	本社、札幌支店、仙台支店、東京支店、大阪支店、福岡支店、総合研究所、長沼ナーセリー、大阪事務所
代表取締役社長	岩田浩幸
国内子会社数	4社
海外子会社数	15社
当社製品の登録取得国数	100ヶ国以上



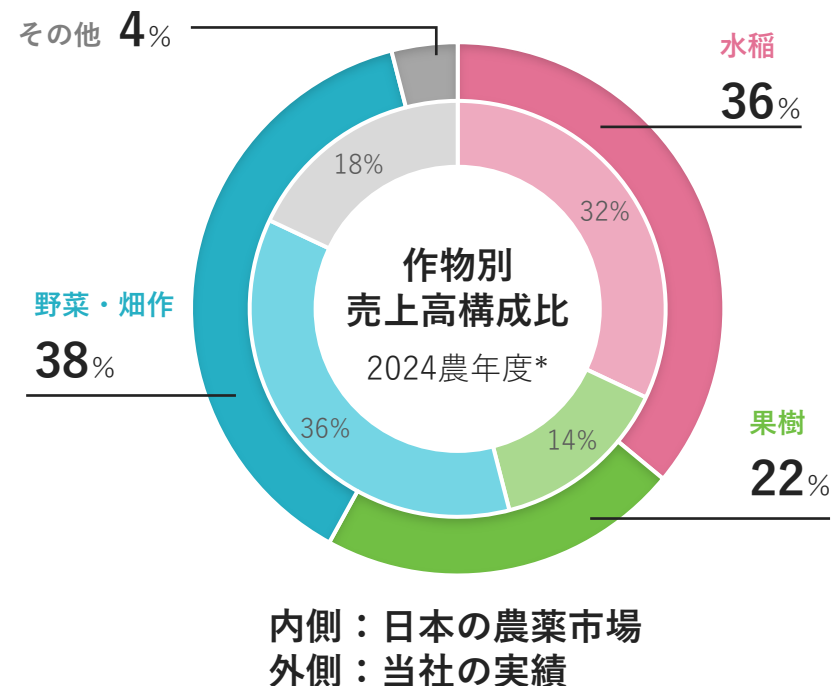
- 日本の気候・風土を反映：温暖多湿なので殺虫剤需要が比較的大きい
- 用途：穀物(Row Crop)より果樹や野菜(Specialty Crop)に強い
- スマート農業：AI病虫害雑草診断アプリの提供など、先進的な独自の取り組みを推進

殺虫剤に強い（温暖多湿の日本を反映）



AgbiolInvestor より

果樹・野菜に強い（特化型）

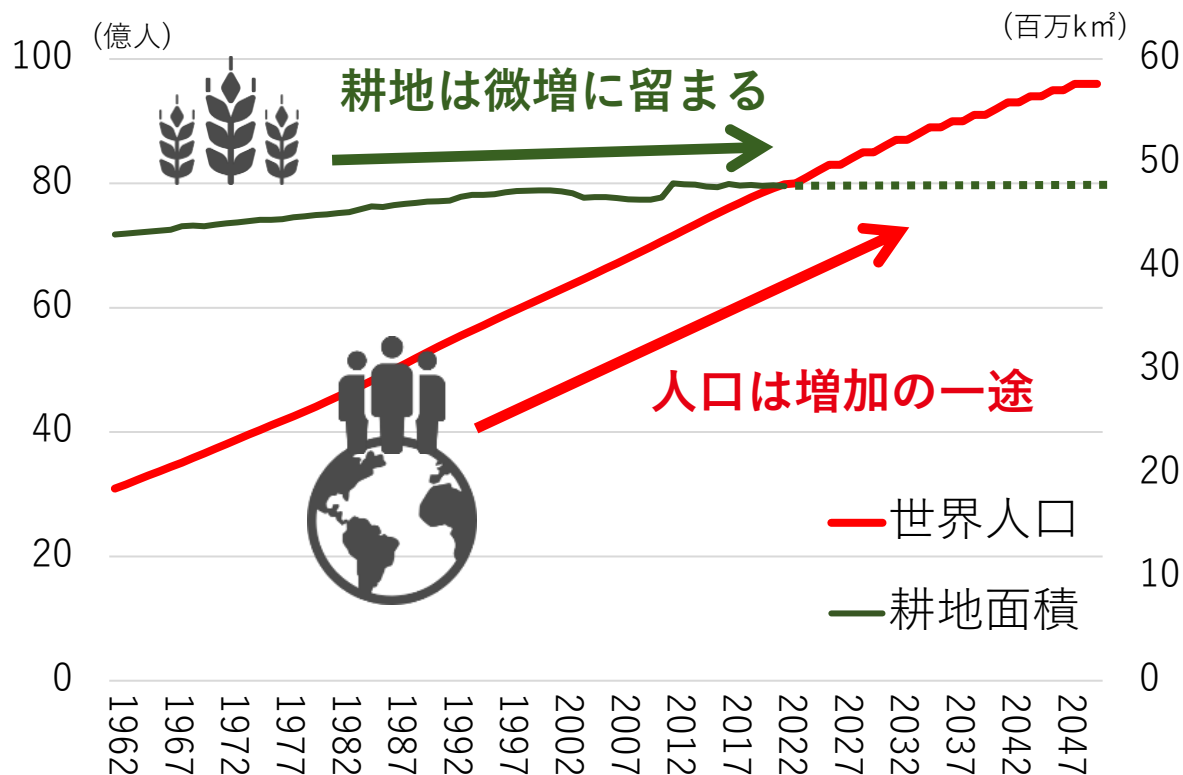


*2023年10月～2024年9月 クロップライフジャパンより

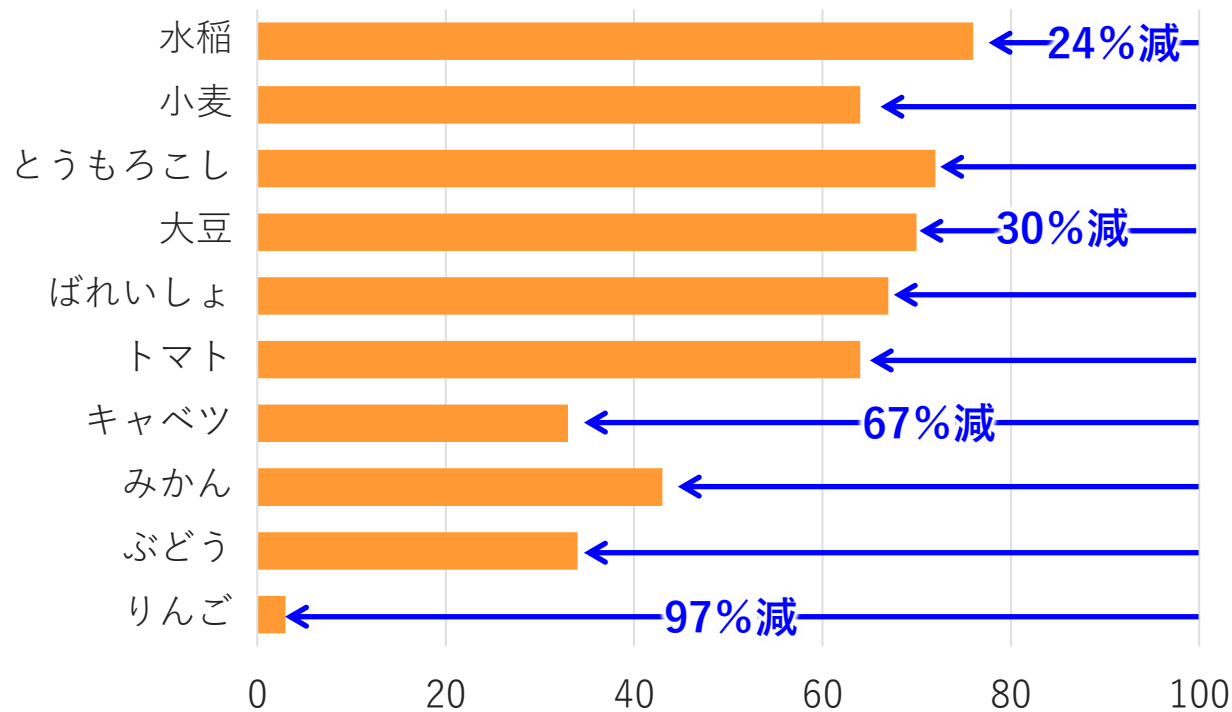
世界人口が増え続ける一方、耕地面積の増加は限定的。耕地拡大は森林減少などの環境課題を招く可能性がある。限られた農地で収穫量・品質を守り食料の安定供給に資することから、農薬事業には高い社会的意義がある。



世界の人口と耕地面積の推移



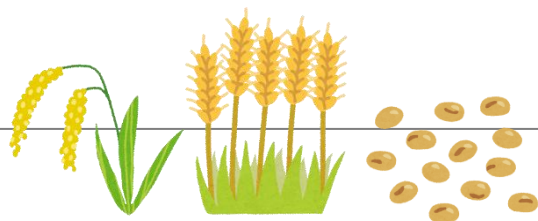
農薬を使用しなかった場合の収穫量



農薬を使用して栽培した場合の収量を100とした場合の、農薬を使用しなかった場合の収穫量(割合)

食料安全保障の観点から、不測事態発生時の食料供給不足に備える「食料供給困難事態対策法」は、生産に不可欠な資材を「特定資材」として供給確保の枠組みに位置付けている。また、政令で肥料・種苗等とともに農薬が明記されている。

特定食料



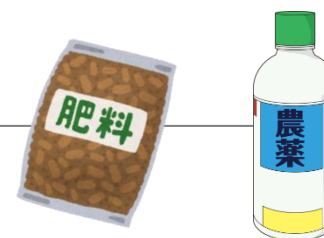
国民の食生活、又は国民経済において重要な農林水産物及びその加工品で政令に定めるもの（法第2条第1項）

農林水産物

米穀、小麦、大豆（食用含む）、なたね・油やしの実、てん菜・さとうきび、生乳、牛肉・豚肉・鶏肉、鶏卵

食料供給困難事態対策法/施行令より

特定資材



特定食料の生産に必要不可欠なもので政令に定めるもの（法第2条第2項）

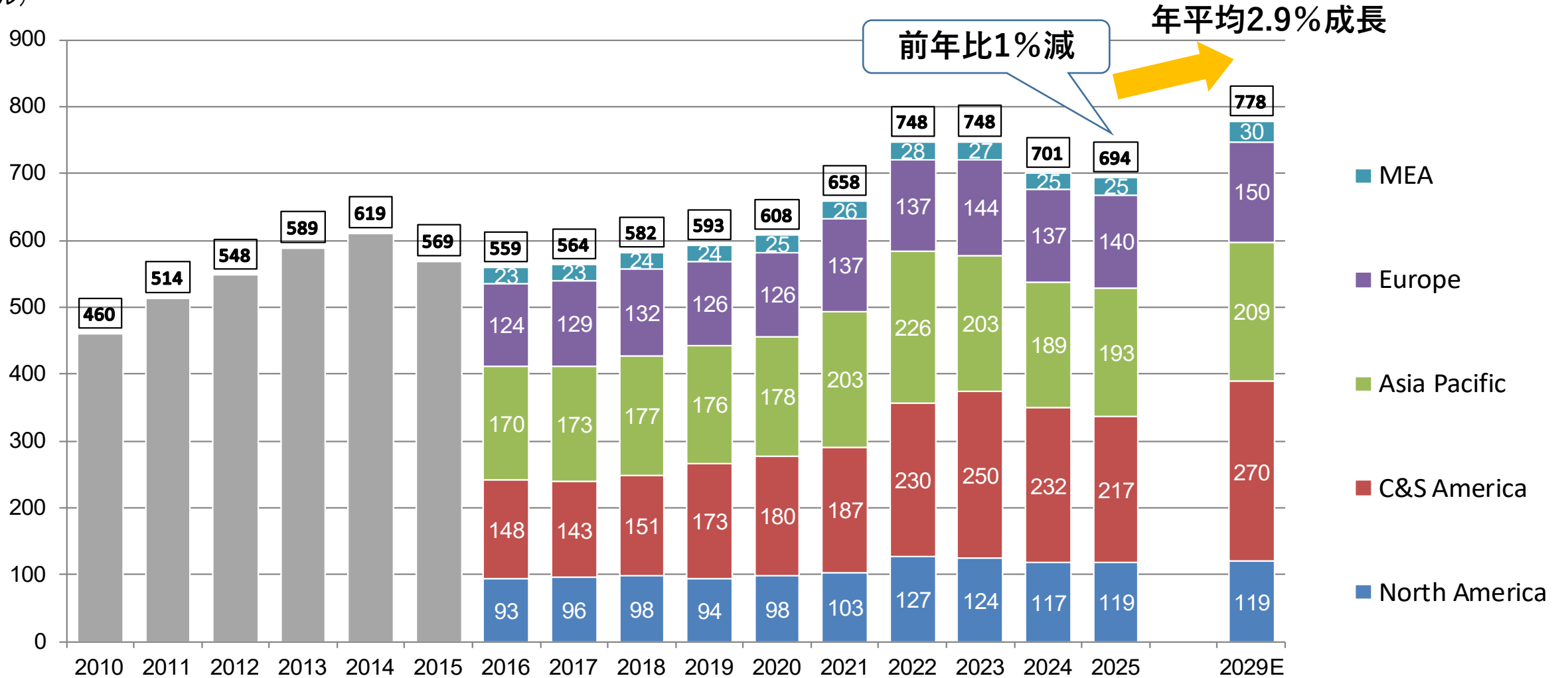
肥料、農薬、種苗、飼料、動物用医薬品

食料安全保障上の不測事態発生時対応の枠組みとして、供給途絶に備えた対策の対象

- I. 世界の農薬市場と当社の状況
- II. 2026年3月期実績
- III. 2027年3月期業績予想
- IV. 中期経営計画への取り組み状況
- V. 質疑応答

1. 世界の農薬市場と当社の状況

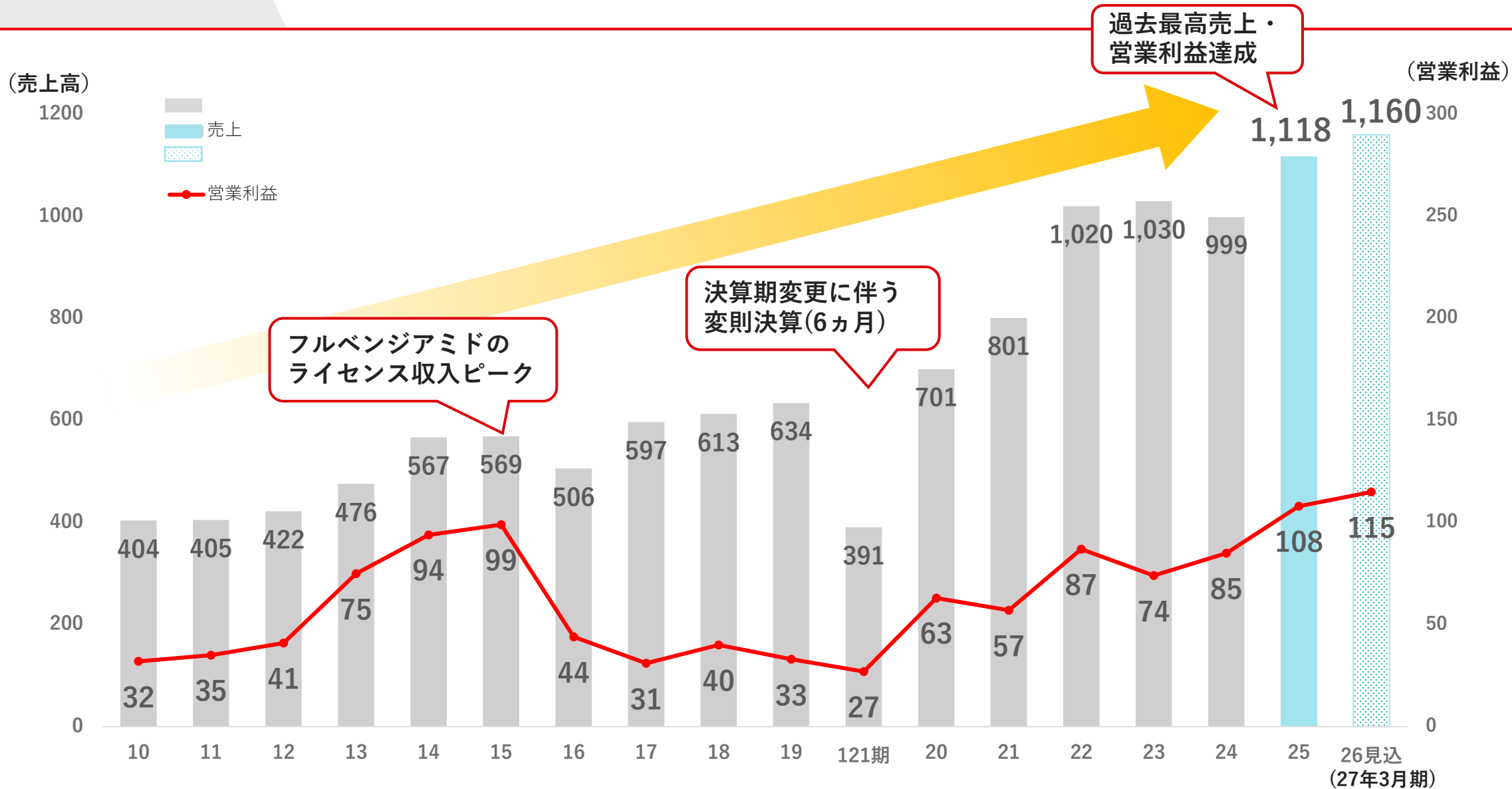
2025年の世界農薬市場は、天候回復と作付け面積拡大で実需は堅調も、価格低迷により金額ベースの成長は足踏み
(億ドル)



2025年の世界農薬市場は現地通貨ベースでは全5地域が成長

当社はSpecialty Crop（果樹・野菜）向けで欧州、北米で過去最高の売上を計上

地域	世界の農薬市場の2025年 概況	当社の実績
欧州	<p>現地通貨ベース+0.9% ドルベース：136億ドル (+1.9%)</p> <p>一部地域における天候不順の影響から、農薬需要は弱含みで推移</p>	<p>211億円 (+58%) ドルベース：1.3億ドル (+59%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果樹・野菜向け製品の技術普及活動が奏功し、販売シェア拡大。 ・Interagro (UK) Ltd.の経営を統合し英国・アイルランドでの直販を本格化
アジア太平洋	<p>現地通貨ベース+2.9% ドルベース：193億ドル (+2.1%)</p> <p>インドでは一部地域での豪雨の影響から農薬の散布機会が減少したほか、病害虫の発生が全体として低調に推移したことから、農薬価格および農薬需要は弱含みで推移</p>	<p>日本を除くアジア：132億円 (-10%) ドルベース：0.8億ドル (-9%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西アジアにおいて多雨による散布機会逸失により販売が伸び悩み <p>日本：255億円 (+9%) ドルベース：1.6億ドル (+10%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米価高騰による生産意欲の高まりから水稻栽培面積が増加し、水稻向け製品の販売が好調に推移 ・コルテバ社の製品の拡販やBASF社の果樹分野向け製品の日本国内での販売開始
中南米	<p>現地通貨ベース+2.0% ドルベース：215億ドル (-6.7%)</p> <p>大豆を始め作付面積が拡大し農薬需要は増加したものの、ジェネリック農薬など一部品目の価格下落の影響などから、農薬価格は弱含みで推移</p>	<p>242億円 (-1%) ドルベース：1.6億ドル (-1%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農産物相場の低迷やジェネリックの攻勢により農薬価格が低下と低温多雨による病害虫の少発生により苦戦
北米	<p>現地通貨ベース+1.7% ドルベース：119億ドル (+1.4%)</p> <p>作物によって作付面積の増減がありつつも、高温・乾燥条件による病害虫の多発などから、農薬需要は堅調に推移</p>	<p>179億円 (+19%) ドルベース：1.1億ドル (+20%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果樹・野菜向け製品の技術普及活動が奏功し、販売シェアが拡大。特に、カリフォルニア州で、年明けの気温急上昇により、病害虫が多発し、殺虫剤の販売が伸長 ・カナダの同業者向け除草剤販売堅調

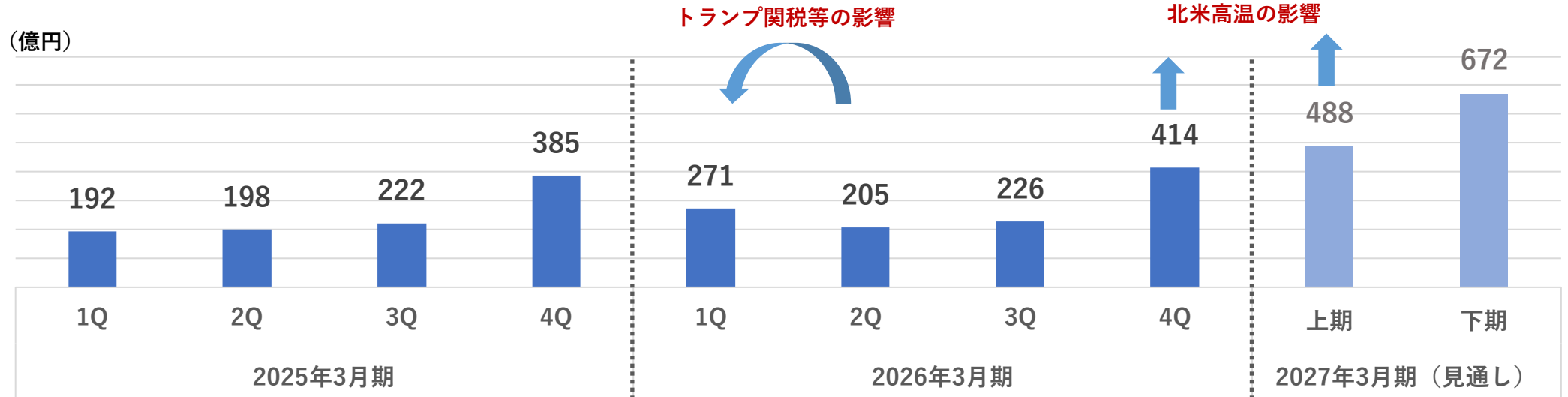


単位：億円

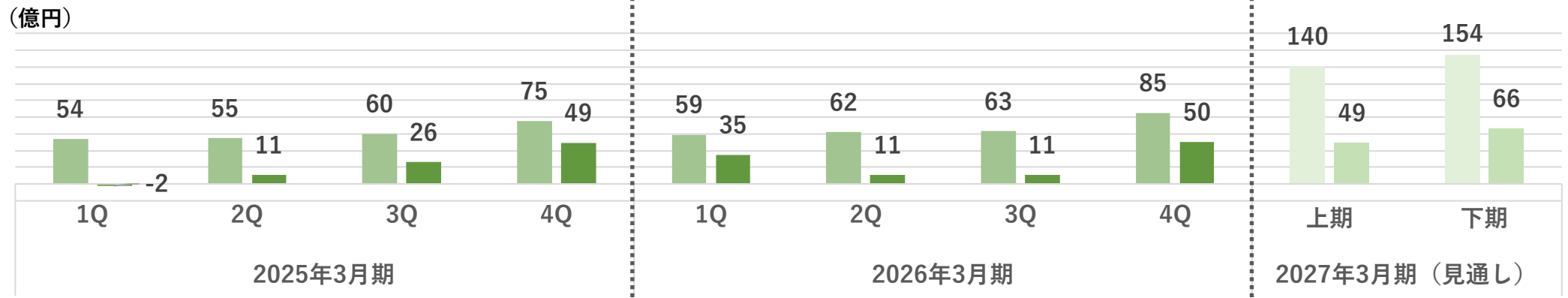
II. 2026年3月期 実績

北半球での春～夏の使用時期に向けて4Q(1～3月)に売上が集中。
これに伴い販管費は4Qがピーク

売上高の推移



営業利益と販管費の推移



■ 販売費および一般管理費 ■ 営業利益

2026年3月期実績（前期比）

（単位：億円、％）

	26年3月期 実績	25年3月期 実績	前期比	
			前期比	増減率
売上高	1,118	999	118	11.9
農薬（国内）	255	233	21	9.3
農薬（海外）	776	692	83	12.1
農薬（その他）	23	19	3	16.1
農薬以外の化学品	41	35	6	18.5
その他	21	18	3	17.0
売上原価	737	667	70	10.5
売上総利益	380	332	48	14.6
販売費及び一般管理費	271	246	25	10.3
営業利益	108	85	23	26.8
経常利益	105	70	34	48.6
親会社株主に帰属する当期純利益	72	23	48	206.8
ROE(自己資本当期純利益率)	8.9%	3.0%		

売上高 999億円 → 1,118億円 (+ 118億円)

営業利益 85億円 → 108億円 (+ 23億円)

海外農薬事業の増益 + 41億円

化学品事業の増益 + 4億円

国内農薬事業の増益 + 1億円

その他の事業の増益 + 1億円

ノウハウ技術料 + 1億円

為替影響 + 1億円

販管費の増加（為替影響除く） - 26億円

2026年3月期実績（業績予想対比）

（単位：億円、％）

	26年3月期 実績	2026年3月期		
		業績予想 <small>（2025年11月10日公表）</small>	差異	増減率
売上高	1,118	1,093	25	2.3
農薬（国内）	255	258	△ 3	△ 1.3
農薬（海外）	776	751	25	3.4
農薬（その他）	23	25	△ 2	△ 10.4
農薬以外の化学品	41	39	1	4.9
その他	21	18	3	21.9
売上原価	737	731	6	0.9
売上総利益	380	362	18	5.1
販売費及び一般管理費	271	270	1	0.7
営業利益	108	92	16	18.2
経常利益	105	80	25	31.6
親会社株主に帰属する当期純利益	72	54	18	33.9

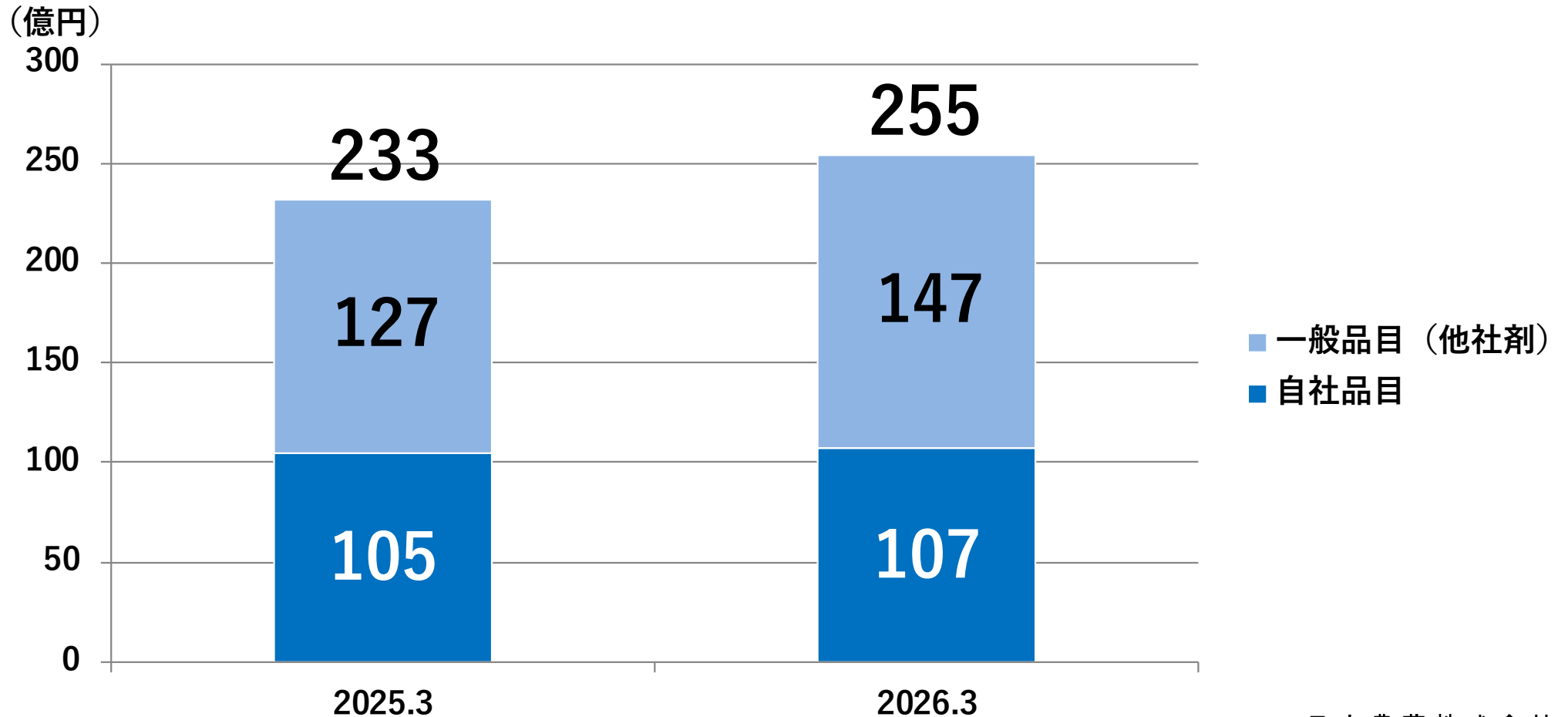
売上高 1,093億円 → 1,118億円 （+ 25億円）

営業利益 92億円 → 108億円 （+ 16億円）

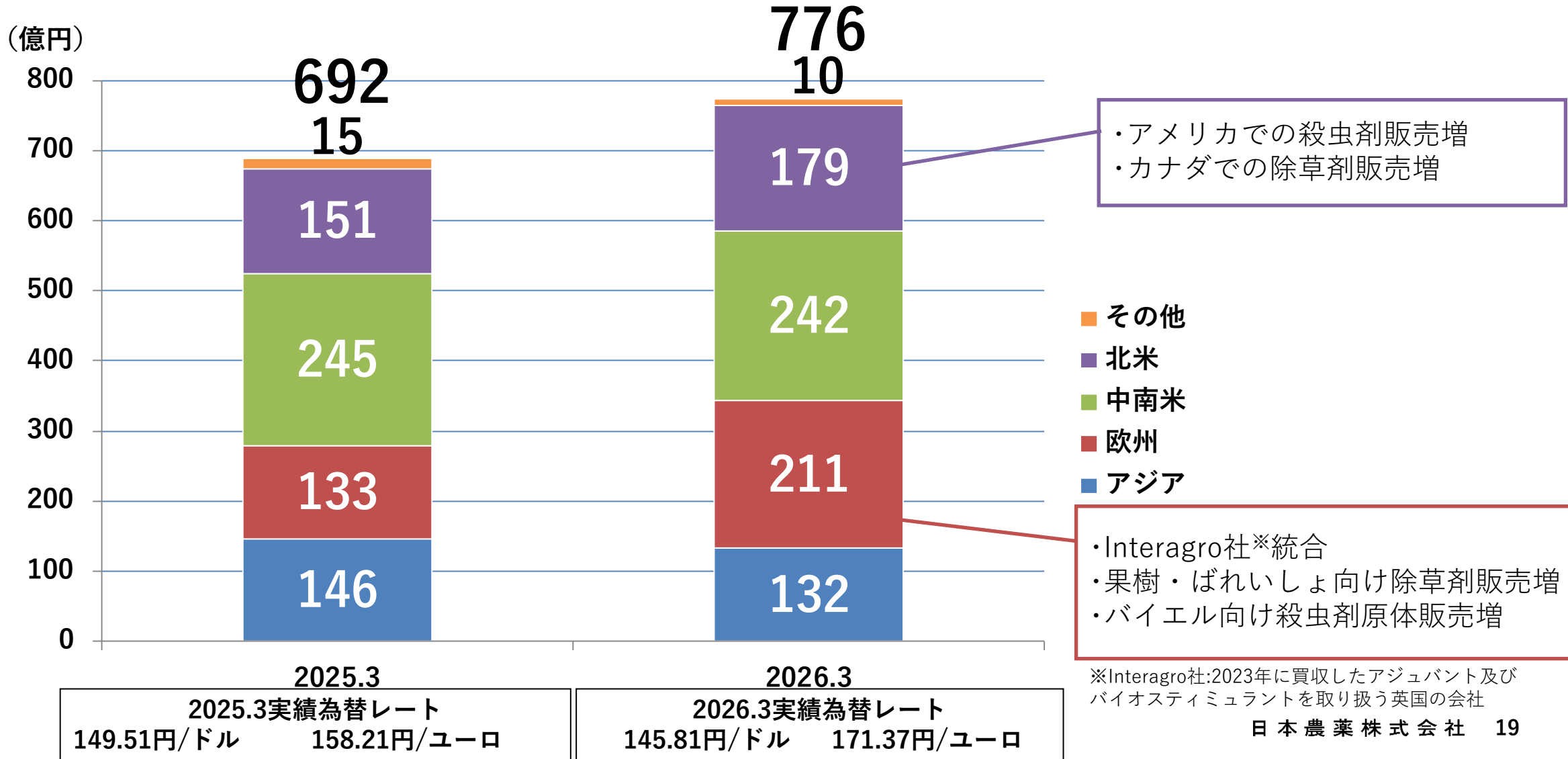
海外農薬事業の増益
（利益率の高い北米での販売増） + 15億円

その他 + 1億円

BASF社の果樹向け農薬独占販売開始、コルテバ社の水稻向け製品等の販売増により増収

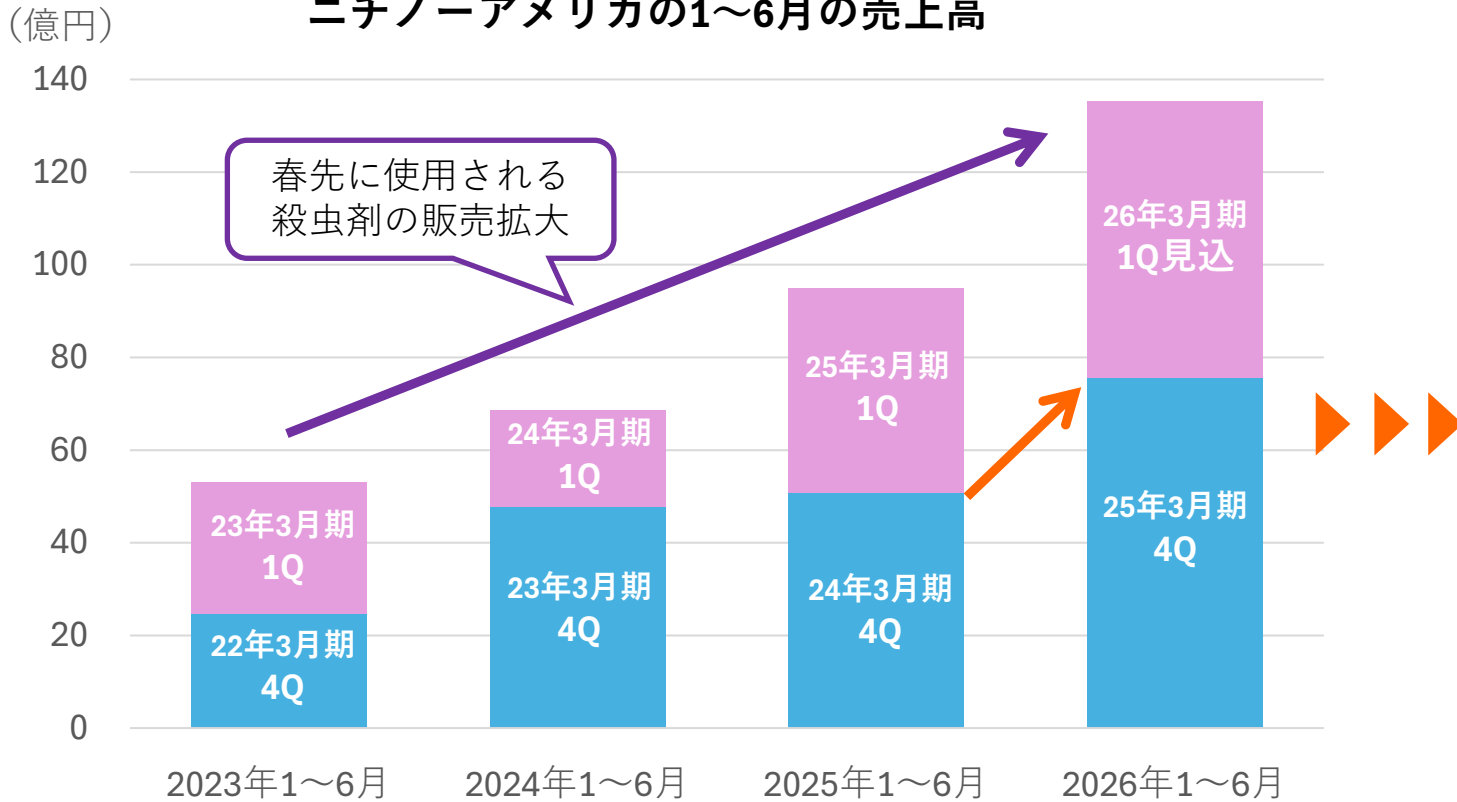


北米での殺虫剤・除草剤、欧州での除草剤・殺虫剤の販売好調などにより増収

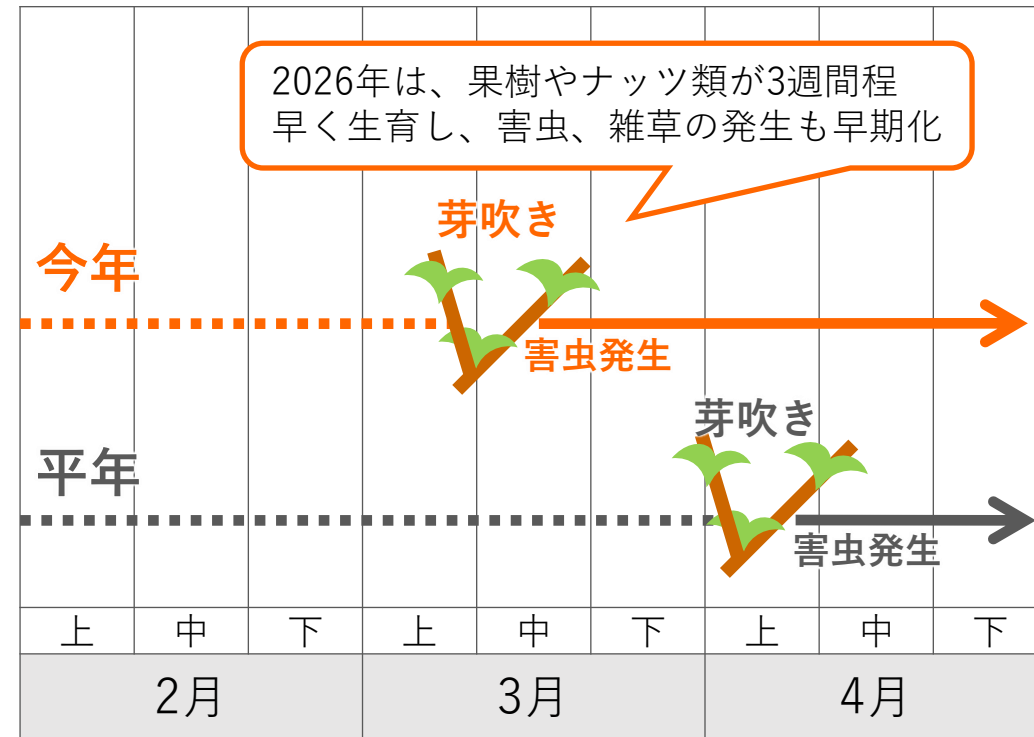


春先に使用される殺虫剤等の販売拡大により1～6月の売上が上昇基調。
 2026年はさらに気温上昇による果樹・ナッツ類の生育が早まったことを背景に農薬需要の拡大と荷動きの早期化により、売上は見込みを大きく上回る。

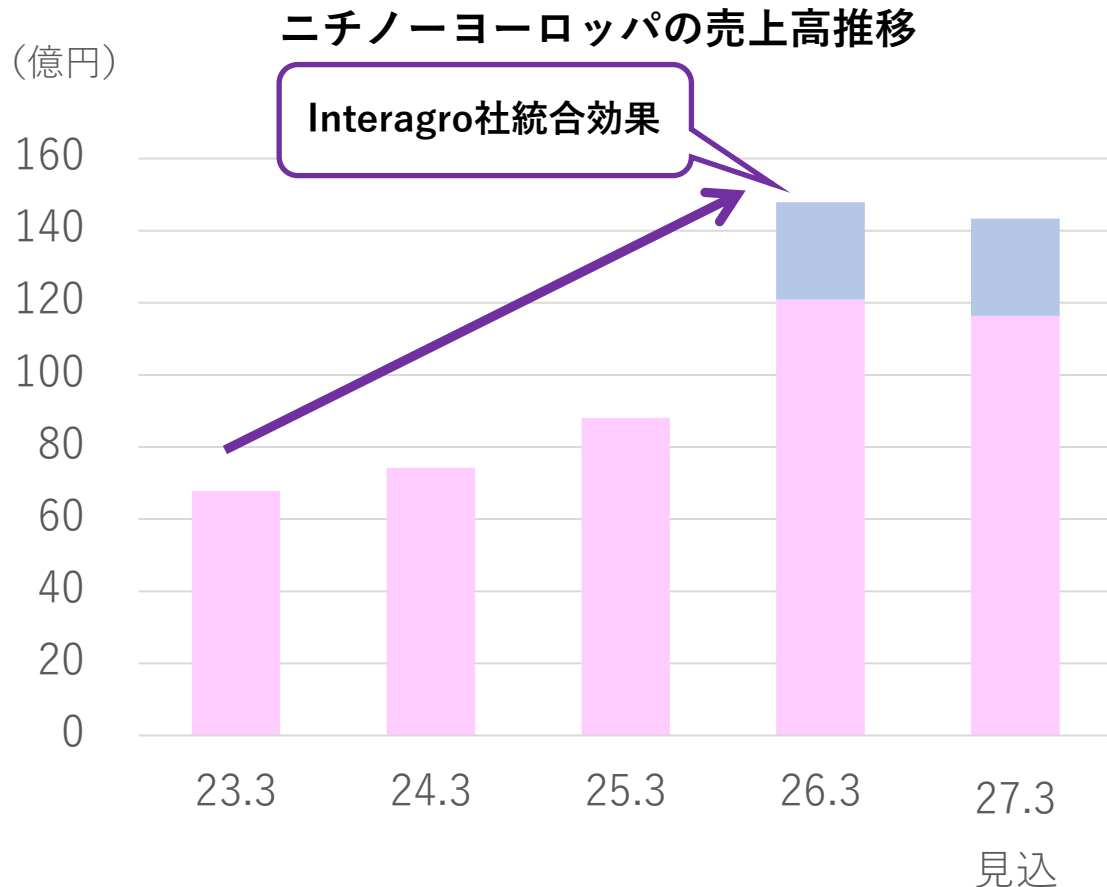
ニチノーアメリカの1～6月の売上高



2026年のカリフォルニアの果樹の生育イメージ



ニチノーヨーロッパでは、独自のポートフォリオを生かした普及活動により着実に市場深耕を進めています。さらにInteragro社の統合シナジーにより、欧州の厳しい市場環境下でも成長を続けています。



好調要因

- ・ Interagro 社統合、英国・アイルランドでの自社品の直販体制強化
- ・ 競合剤規制に伴う、代替需要の確実な獲得
- ・ ジェネリック価格圧力に強い自社ポートフォリオ

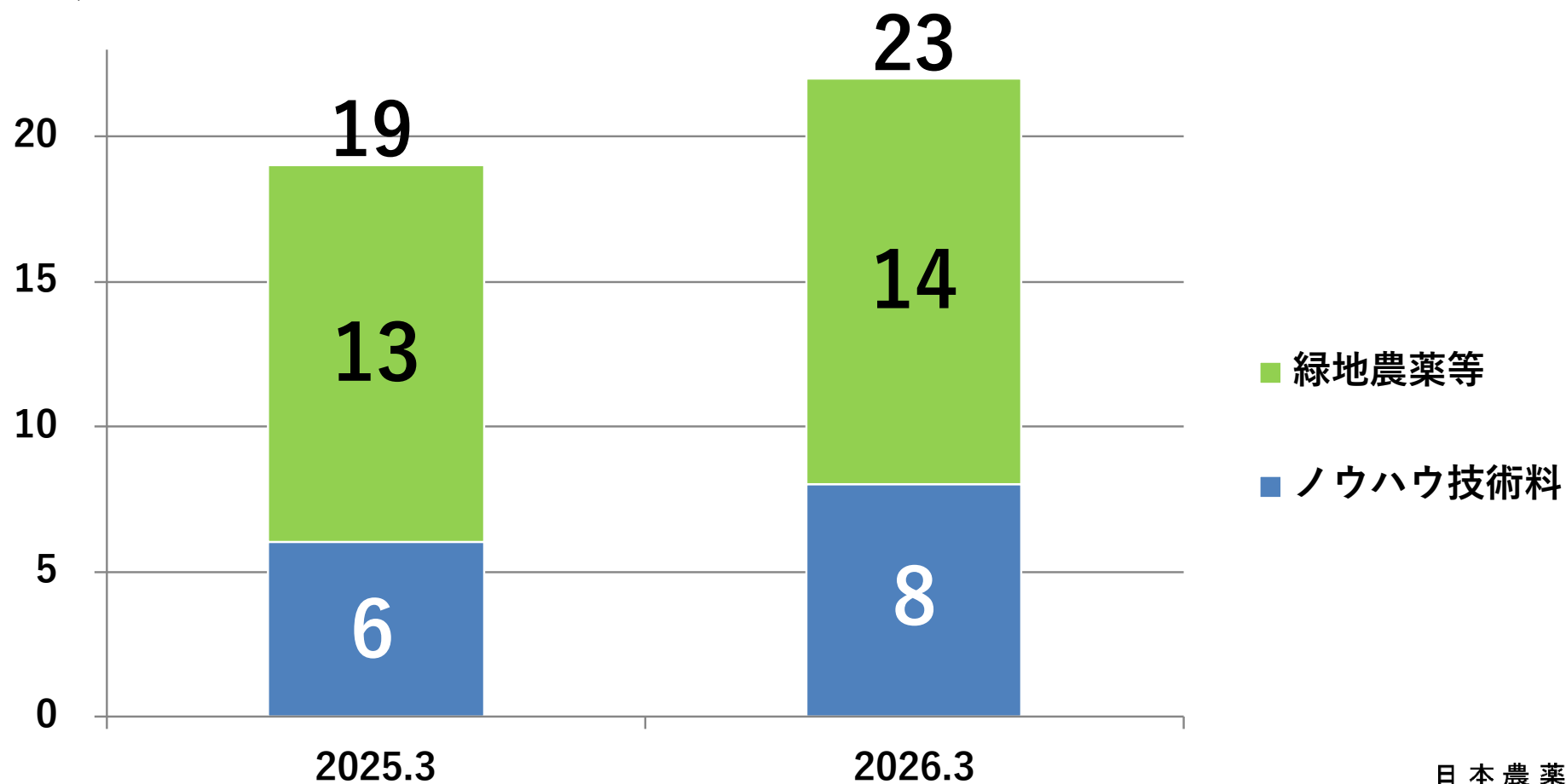
2026年3月期は過去最高売上を達成

主要取扱製品の動向

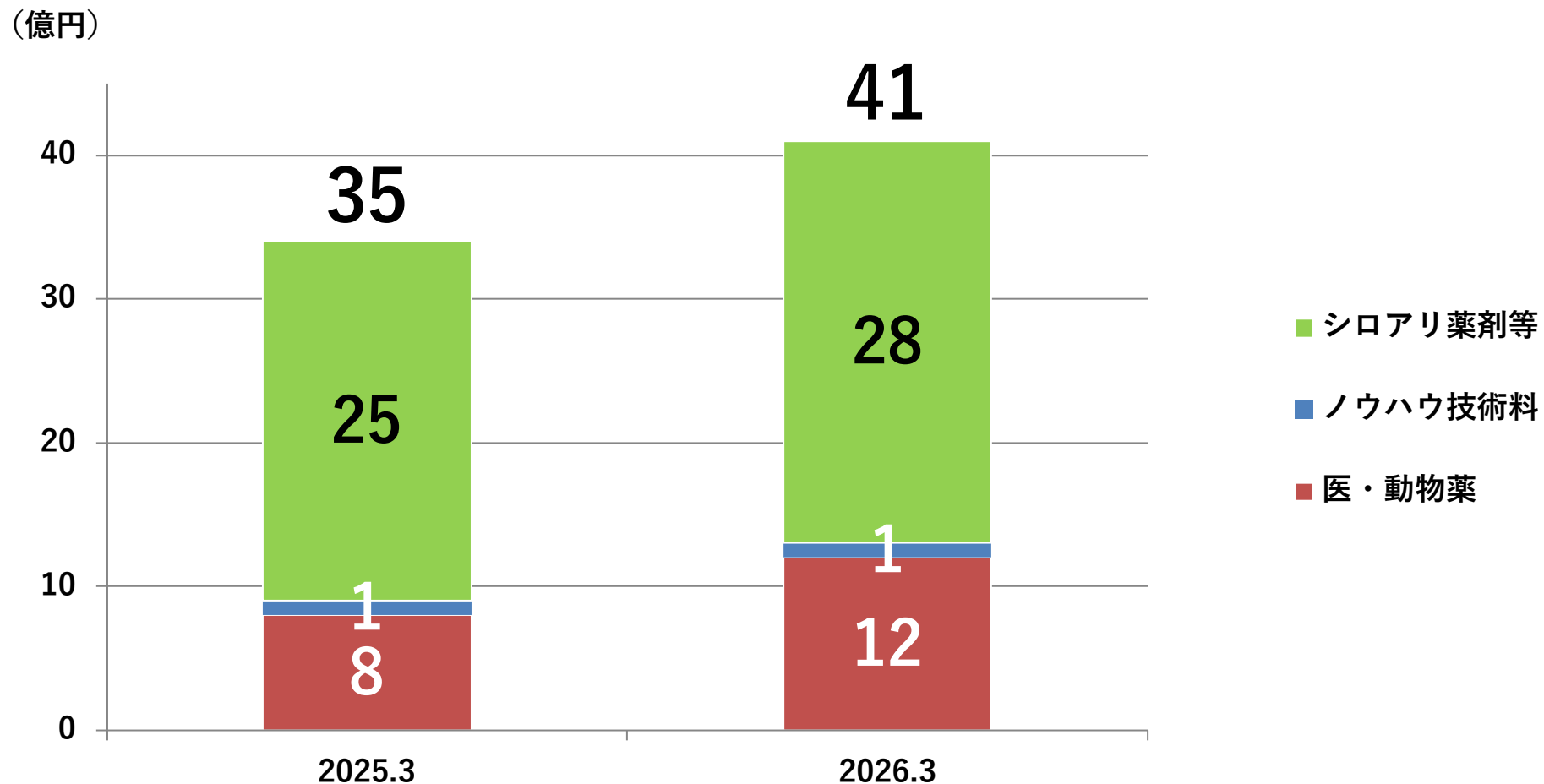
- ・ ピラフルフェンエチル (除草剤) ; 前年比154%
欧州全域で販売拡大
- ・ フェンピロキシメート/テブフェンピラド(殺ダニ剤)
南欧でのダニ多発により需要増大
- ・ アジュバント/バイオスティミュラント
Interagro社統合シナジーにより販売好調

ノウハウ技術料が増加

(億円)



医薬品、シロアリ薬剤等が増収



国内グループ会社主要業績（前期比）

（単位：百万円、％）

		26年3月期 実績	25年3月期 実績		
				前期比	増減率
日本農薬	売上高	57,361	53,821	3,540	6.6
	営業利益	4,092	4,138	△ 46	△ 1.1
	当期純利益	4,619	△ 2,731	7,350	—
ニチノーサービス	売上高	4,240	4,050	190	4.7
	営業利益	184	160	24	15.3
	当期純利益	105	54	51	94.5
ニチノー緑化	売上高	2,297	2,089	207	9.9
	営業利益	73	54	18	34.3
	当期純利益	49	36	13	37.3
日本エコテック	売上高	1,081	940	140	15.0
	営業利益	103	60	43	71.7
	当期純利益	69	42	27	64.1
アグリマート	売上高	2,863	2,518	344	13.7
	営業利益	428	287	140	48.9
	当期純利益	279	187	92	49.5

海外グループ会社主要業績（前期比）

（単位：百万円、％）

		26年3月期 実績	25年3月期 実績			売上高 為替換算レート(円)	
				前期比	増減率		
ニチノアメリカ	売上高	17,981	15,117	2,863	18.9	米ドル	
	営業利益	2,483	1,538	944	61.4	25.3実績	152.16
	当期純利益	2,369	1,206	1,162	96.4	26.3実績	151.41
日佳農葯	売上高	355	441	△ 86	△ 19.6	台湾ドル	
	営業利益	△ 50	△ 8	△ 42	—	25.3実績	4.69
	当期純利益	△ 36	△ 2	△ 33	—	26.3実績	4.90
ニチノインドニア	売上高	10,133	9,186	946	10.3	インドルピー	
	営業利益	398	△ 253	651	—	25.3実績	1.80
	当期純利益	112	△ 434	546	—	26.3実績	1.72
シプカムニチノブラジル	売上高	22,053	22,563	△ 510	△ 2.3	ブラジルリアル	
	営業利益	1,570	1,910	△ 339	△ 17.8	25.3実績	27.29
	当期純利益	△ 751	131	△ 882	—	26.3実績	27.19
ニチノヨーロッパ	売上高	14,789	8,807	5,981	67.9	英ポンド	
	営業利益	1,986	908	1,078	118.7	25.3実績	194.64
	当期純利益	1,611	763	847	111.0	26.3実績	202.37
ニチノベトナム	売上高	1,276	1,462	△ 185	△ 12.7	ベトナムドン（100ドン）	
	営業利益	76	92	△ 15	△ 17.0	25.3実績	0.63
	当期純利益	57	61	△ 4	△ 6.8	26.3実績	0.61

訴訟の和解金の影響

III. 2027年3月期業績予想

（単位：億円、％）

	27年3月期 業績予想	26年3月期 実績		
			前期比	増減率
売上高	1,160	1,118	41	3.7
農薬（国内）	267	255	11	4.6
農薬（海外）	808	776	31	4.1
農薬（その他）	20	23	△ 2	△ 9.2
農薬以外の化学品	40	41	△ 1	△ 2.5
その他	23	21	1	5.8
売上原価	751	737	13	1.8
売上総利益	408	380	27	7.3
販売費及び一般管理費	293	271	22	8.1
営業利益	115	108	6	5.7
経常利益	110	105	4	4.5
親会社株主に帰属する当期純利益	74	72	1	2.4
ROE(自己資本当期純利益率)	8.5%	8.9%		

2027.3予想為替レート
150.00円/ドル
175.00円/ユーロ

2026.3実績為替レート
145.81円/ドル
171.37円/ユーロ

売上高 1,118億円 → 1,160億円 （+ 41億円）

営業利益 108億円 → 115億円 （+ 6億円）

海外農薬事業の増益 + 28億円

国内農薬事業の増益 + 5億円

販管費の増加（為替影響除く） - 24億円

化学品事業の減益 - 2億円

ノウハウ技術料 - 1億円

現在の状況

調達・生産面



直近に生産する分の材料は確保済みであり、生産への大きな影響は出ていない。

販売面



多くの地域で、生産者や流通が使用する農薬の一定量を3月まで確保するため、影響は限定的。

事業への影響は限定的

事態が長期化した場合 (ワーストケース)

事態が長期化した場合、溶媒(トルエン・キシレン)や一部包装材料等の確保が困難となる。材料の調達が滞った場合、生産への影響が顕在化する。

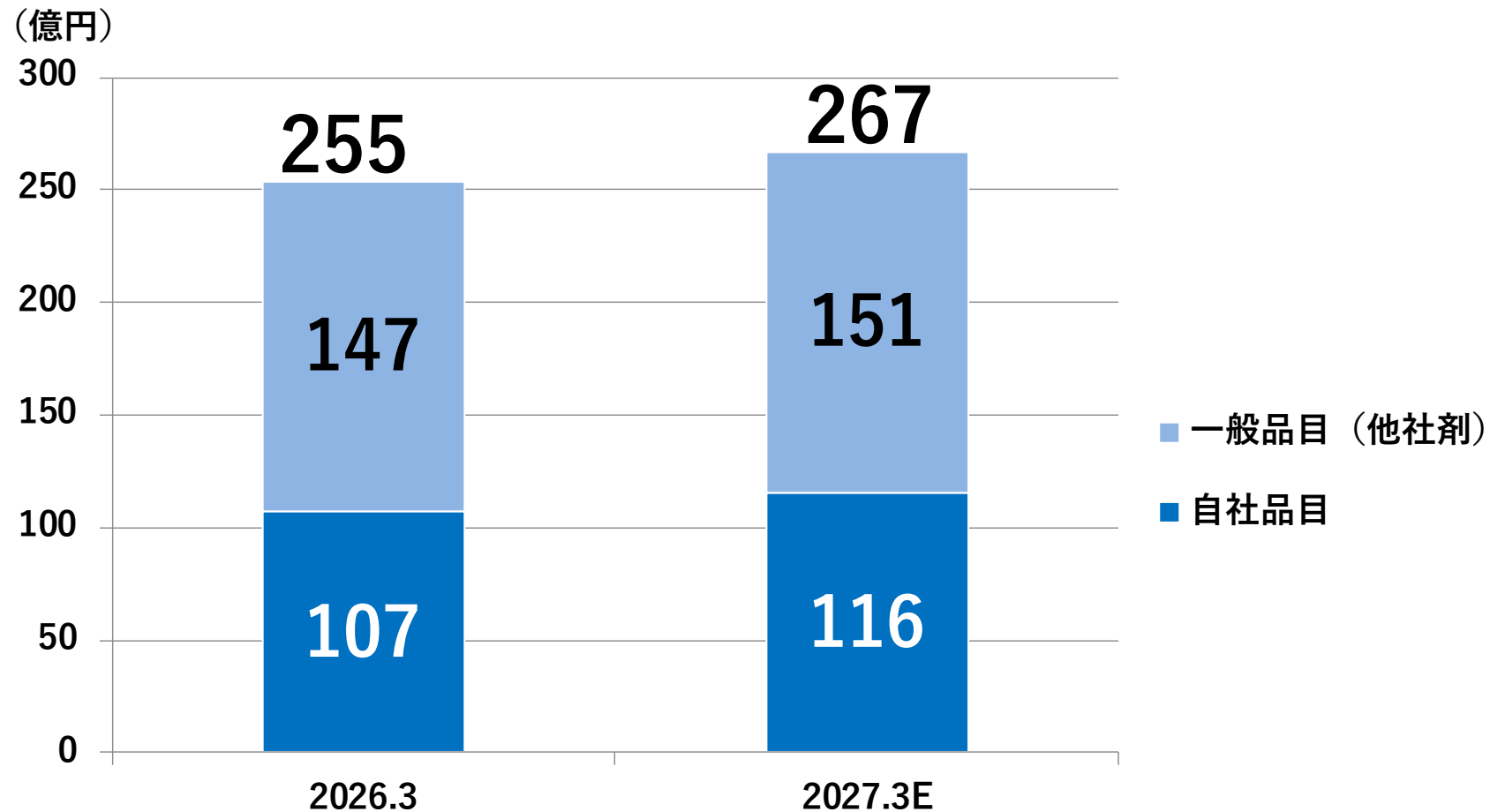
生産が停滞した場合、製品供給が滞り、販売に影響する。

影響の最小化に向け、代替調達手段の検討や調達リスク品の管理を開始

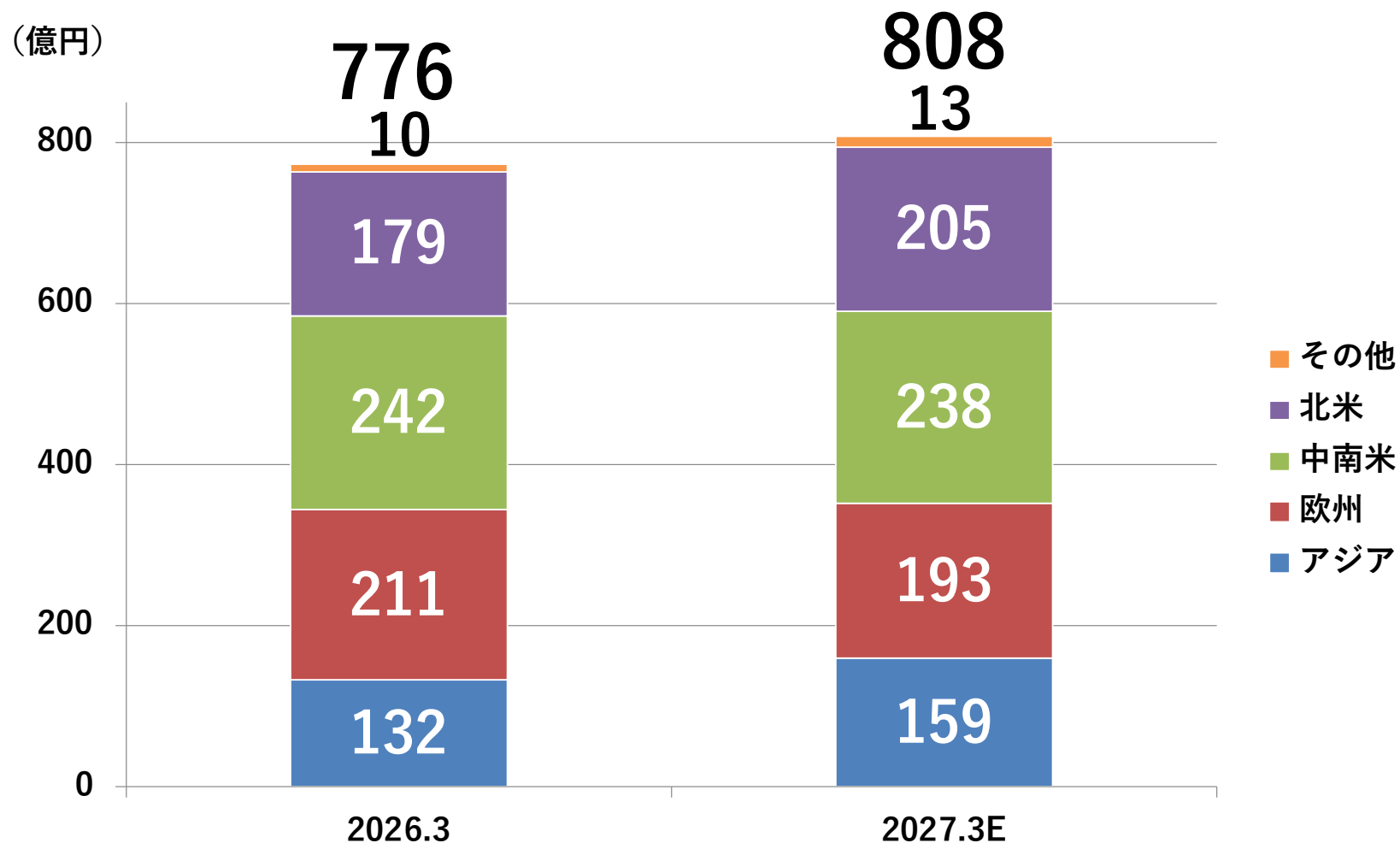
対策

一部地域では肥料等不足懸念から、栽培する作物を変更する動きがあり、情報収集中

自社品の増販とBASF社の果樹用農薬の独占販売権獲得の通期寄与により増収



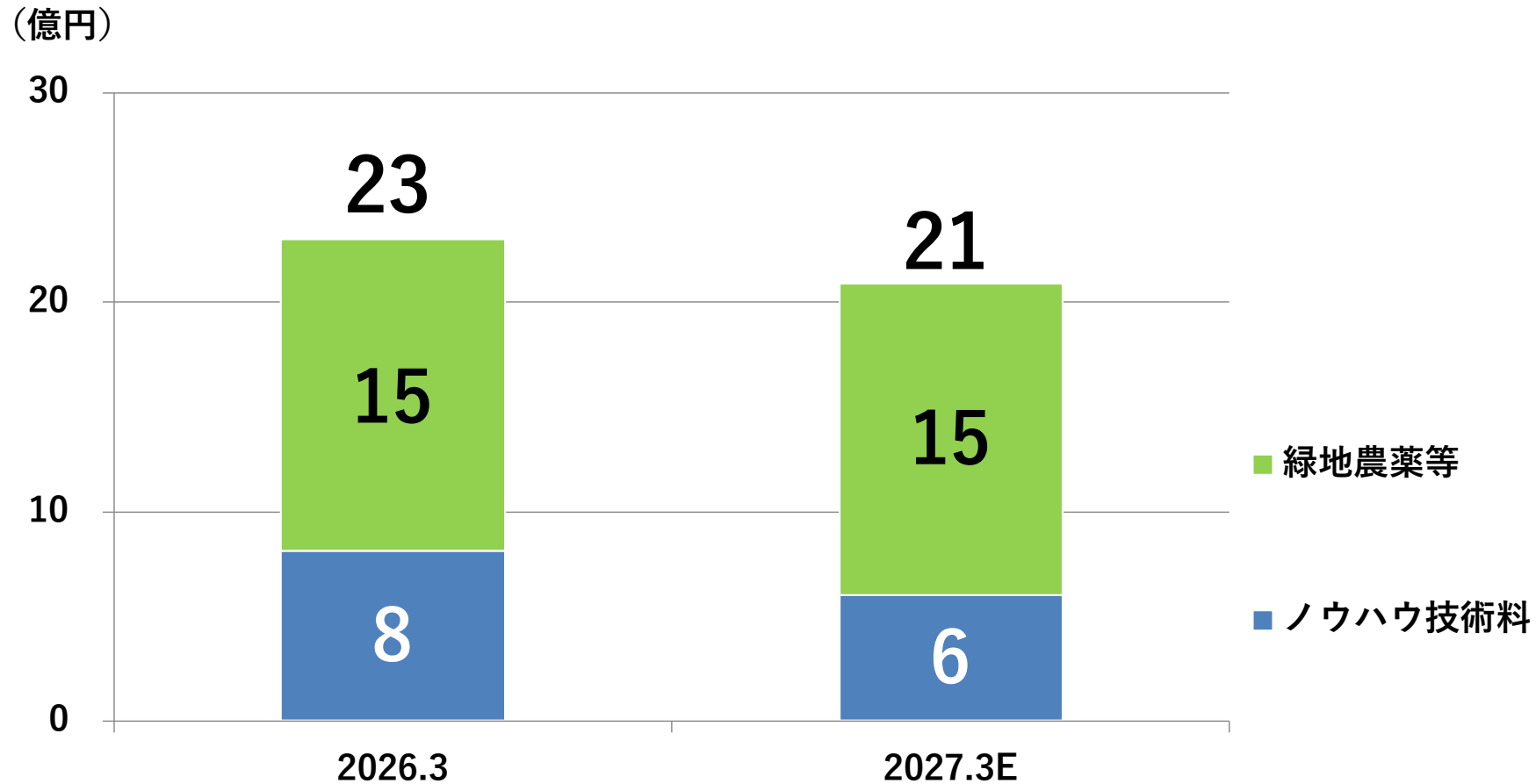
北米での除草剤・殺ダニ剤販売好調およびアジア復調などにより増収



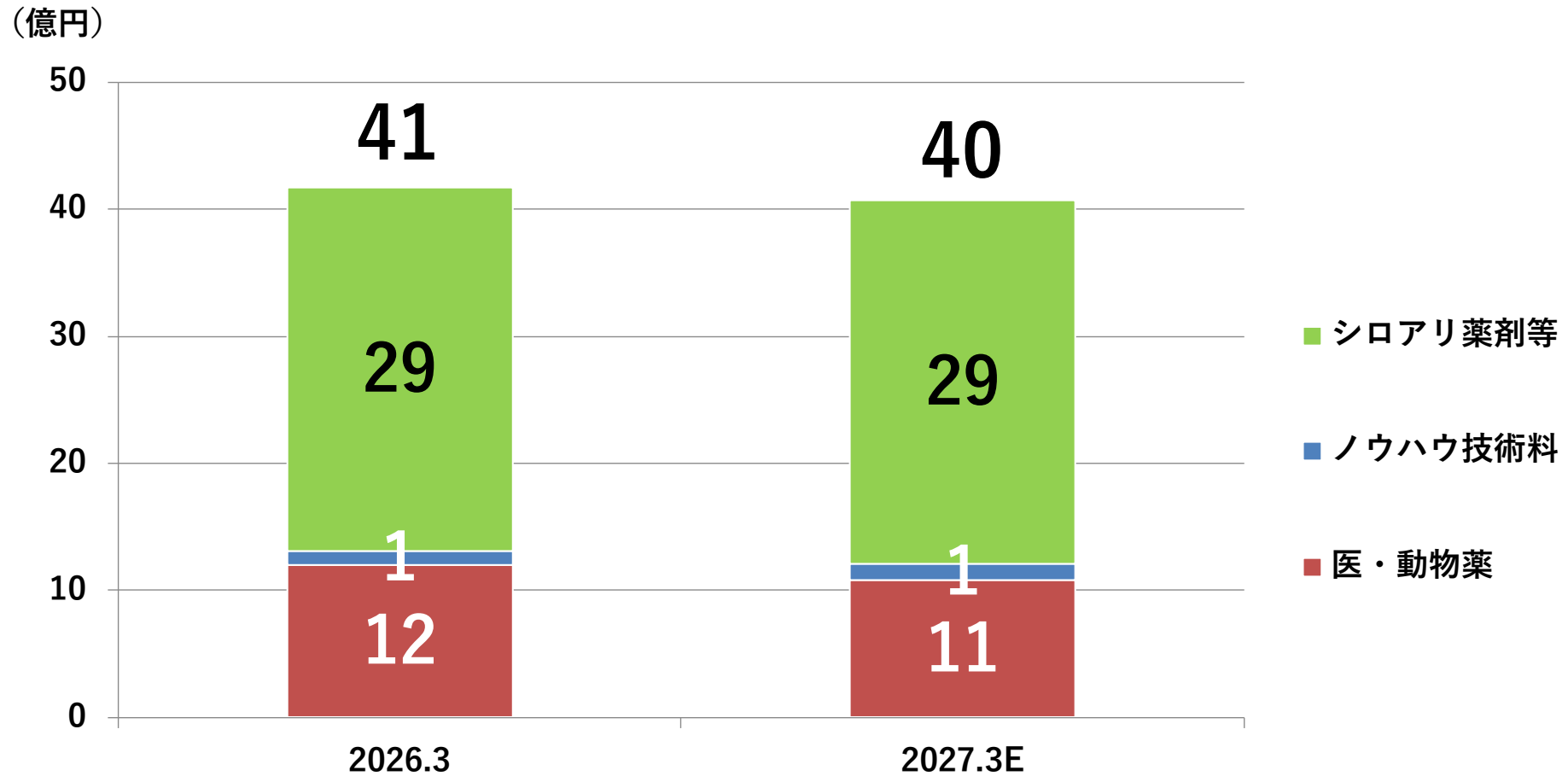
2026.3実績為替レート： 145.81円/ドル
171.37円/ユーロ

2027.3予想為替レート： 150円/ドル
175円/ユーロ

ノウハウ技術料は減収の見込み



医・動物薬およびシロアリ薬剤等が引き続き堅調



年間38円に増配の計画

			23.3	24.3	25.3	26.3	27.3E
親会社に帰属する当期純利益	百万円		4,488	4,777	2,356	7,228	7,400
配当総額	百万円		1,260	1,417	1,732	2,835	2,975
1株当たり 配当金	中間	円	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0
	期末	円	8.0	9.0	12.0	24.0	24.0
	合計	円	16.0	18.0	22.0	36.0	38.0
配当性向	%		28.0	29.6	73.2	39.0	40.2

国内グループ会社主要業績（前期比）

（単位：百万円、％）

		27年3月期	26年3月期		
		業績予想	実績	前期比	増減率
日本農薬	売上高	58,946	57,361	1,584	2.8
	営業利益	4,537	4,092	445	10.9
	当期純利益	5,064	4,619	445	9.6
ニチノサービス	売上高	4,476	4,240	236	5.6
	営業利益	192	184	7	4.0
	当期純利益	136	105	31	29.9
ニチノ緑化	売上高	2,532	2,297	235	10.2
	営業利益	78	73	5	7.0
	当期純利益	51	49	2	4.6
日本エコテック	売上高	1,100	1,081	18	1.7
	営業利益	104	103	1	1.7
	当期純利益	69	69	0	0.1
アグリマート	売上高	2,860	2,863	△ 3	△ 0.1
	営業利益	360	428	△ 68	△ 15.7
	当期純利益	231	279	△ 49	△ 17.4

海外グループ会社主要業績（前期比）

（単位：百万円、％）

		27年3月期 業績予想	26年3月期		増減率	売上高 為替換算レート(円)	
			実績	前期比			
ニチノアメリカ	売上高	20,658	17,981	2,677	14.9	米ドル	
	営業利益	2,561	2,483	78	3.2	2026.3実績	151.41
	当期純利益	1,951	2,369	△ 418	△ 17.6	2027.3予想	150.00
日佳農薬	売上高	411	355	55	15.7	台湾ドル	
	営業利益	0	△ 50	50	—	2026.3実績	4.90
	当期純利益	3	△ 36	39	—	2027.3予想	5.00
ニチノインドア	売上高	11,427	10,133	1,294	12.8	インドルピー	
	営業利益	633	398	235	59.1	2026.3実績	1.72
	当期純利益	202	112	89	80.0	2027.3予想	1.70
シプカムニチノブラジル	売上高	21,383	22,053	△ 670	△ 3.0	ブラジルリアル	
	営業利益	1,658	1,570	87	5.6	2026.3実績	27.19
	当期純利益	197	△ 751	948	—	2027.3予想	26.00
ニチノヨーロッパ	売上高	14,333	14,789	△ 457	△ 3.1	英ポンド	
	営業利益	1,947	1,986	△ 40	△ 2.0	2026.3実績	202.37
	当期純利益	1,493	1,611	△ 118	△ 7.3	2027.3予想	200.00
ニチノベトナム	売上高	1,365	1,276	88	7.0	ベトナムドン（100ドン）	
	営業利益	29	76	△ 47	△ 61.2	2026.3実績	0.61
	当期純利益	10	57	△ 47	△ 81.6	2027.3予想	0.60

IV. 中期経営計画への取り組み状況



	【成果】	【課題】
事業と収益の拡大	<ul style="list-style-type: none"> 国内コルテバ社剤拡販とBASF社果樹剤取扱い開始 NAFTA地域を中心としたエリア戦略による販売拡大（ニチノアメリカ・ニチノヨーロッパで過去最高売上） 	<ul style="list-style-type: none"> インドにおけるベンズピリモキサン等の主力品目の販売苦戦 ジェネリック品の台頭・攻勢への対応 海外拠点の構造改革（インド再建築実行、ブラジル収益改善）
新たな収益源の創出	<ul style="list-style-type: none"> 新規殺虫剤シベンゾキサスルフィルの登録申請完了（日・韓） 理化学研究所との高付加価値化合物生産技術の特許共同出願 AI害虫同定システム新ブランド衛生害虫向け「AiPics」のリリース 農研植物病院との資本提携 	<ul style="list-style-type: none"> 後続パイプラインの早期ステージアップ 次世代パイプラインの拡充 AI診断ビジネスの本格的な収益化
財務基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> 中計目標をクリアするROE8.9%の達成 在庫の適正化 	<ul style="list-style-type: none"> 連結ベースでの適正在庫設定とモニタリング グローバル同時開発に向けたパイプライン化合物の選択と集中
	【成果】	【課題】
環境経営の高度化	<ul style="list-style-type: none"> GHG排出量算システム導入準備完了 CDPスコア「気候変動」「水セキュリティ」両項目でB評価獲得 環境調和型製品※の売上比率33%達成 	<ul style="list-style-type: none"> カーボンニュートラルロードマップ更新とScope 3算定の精緻化 環境調和型製品の理解促進と販売戦略の確立
人権経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> エンゲージメントスコア70の目標達成 女性管理職比率の向上（10.6%） 	<ul style="list-style-type: none"> 女性管理職比率向上施策の整備 グローバル・専門人財の育成 障がい者雇用の促進
企業組織統治の強化	<ul style="list-style-type: none"> 「NICHINOグループ安全経営宣言」の表明 統合報告書発行開始 	<ul style="list-style-type: none"> 安全文化の醸成と安全管理（品質・労災等）の徹底 SSBJ対応とDXツール整備

※環境調和型製品：当社基準による、人や動物、環境への安全性が相対的に高い製品

【課題】

事業と収益の拡大

- 主要重点品目の販売拡大
- 海外子会社の抜本的な収益改善（インド・ブラジル）

新たな収益源の創出

- 次世代パイプラインの進捗加速
- AI診断技術の収益化
- 業務効率化推進

財務基盤の強化

- 資本収益性指標のさらなる向上
- 連結適正在庫のモニタリング

【重点取り組み】

- 販売計画の確実な遂行による予算達成
- インドでの営業体制構築、ブラジルでのグループファイナンスによるコスト削減
- 需要を踏まえた最適生産

- 研究開発計画の着実な推進と早期化合物選抜の実行
- 外部連携によるデジタルサービスの海外展開
- スマート工場プロジェクトの立ち上げ

- ROE8%水準の継続と向上に向けた投資採算性基準の適正な運用
- グローバルでの適正在庫モニタリングと管理の徹底

【課題】

環境経営の高度化

- カーボンニュートラルロードマップ更新とScope1・2削減策具体化
- Scope3算定精緻化とサプライヤー連携強化
- 女性管理職比率向上施策の整備
- 専門・グローバル人材育成とシニア活用、健康課題改善
- 障がい者雇用不足の解消と受け入れ強化
- 人権リスクの継続評価、人権救済メカニズムの整備と定着

人権経営の推進

企業組織統治の強化

- 安全管理徹底
- 情報管理のDX化とITセキュリティ強化

【重点取り組み】

- 2050年ネットゼロに向けたロードマップの再構築
- GHG削減に向けた設備投資と「EcoTrack」の運用開始

- 女性管理職育成に向けた組織基盤の強化
- 定年再雇用制度の見直し、新健康管理システムの導入
- 障がい者採用受け入れ態勢強化と人権経営進化

- 安全基盤強化・安全文化醸成に向けたグループ施策推進
- グループ情報セキュリティ方針策定

企業価値向上策①

海外グループ会社の取り組み（インド再建・ブラジル収益力強化）

課題

重点取り組み

ニチノー
インド

- ・ BtoC事業の採算性低下
- ・ 販管費の増加

- 取引先の集中と選択
- 人件費と販促費の適正化
- 高付加価値・重点品目へのリソース集中
- 原体製造設備を活かした原価低減、及び生産基盤強化

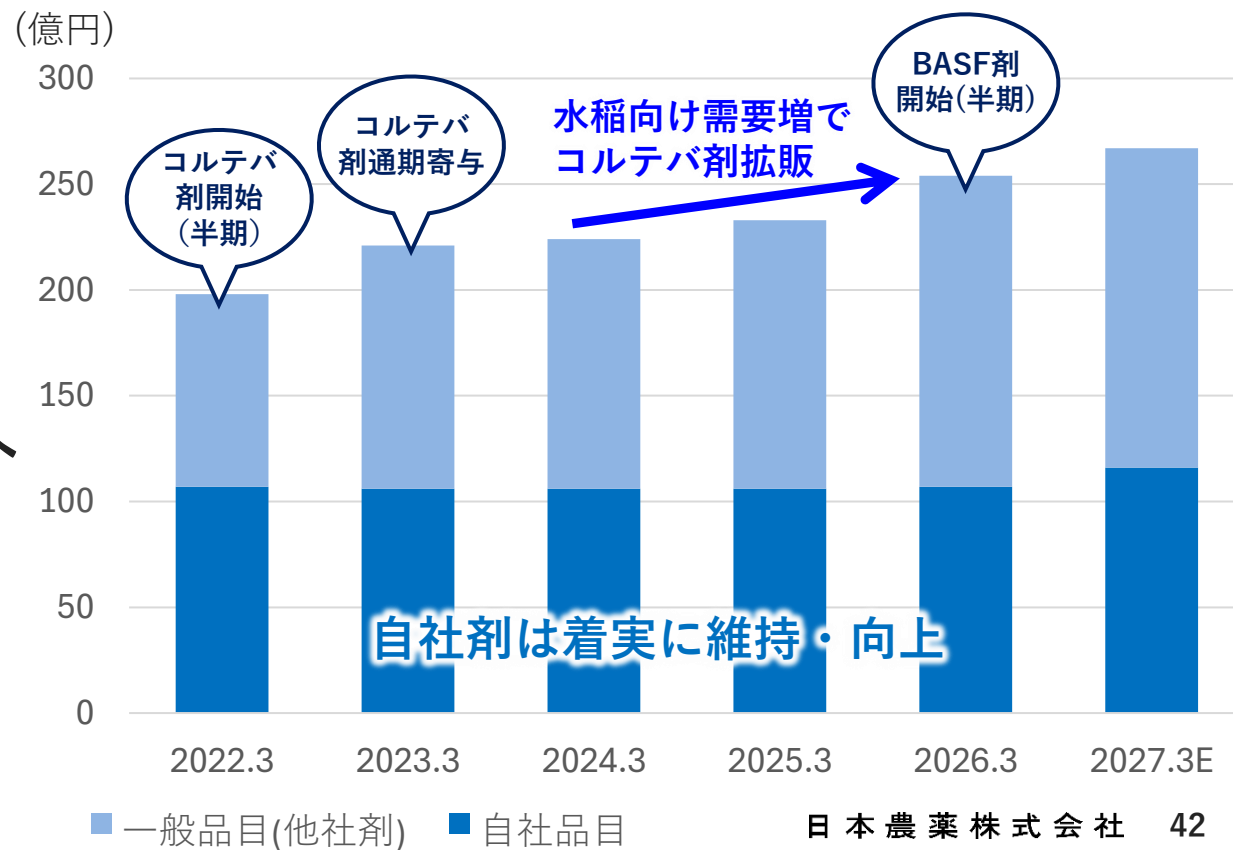
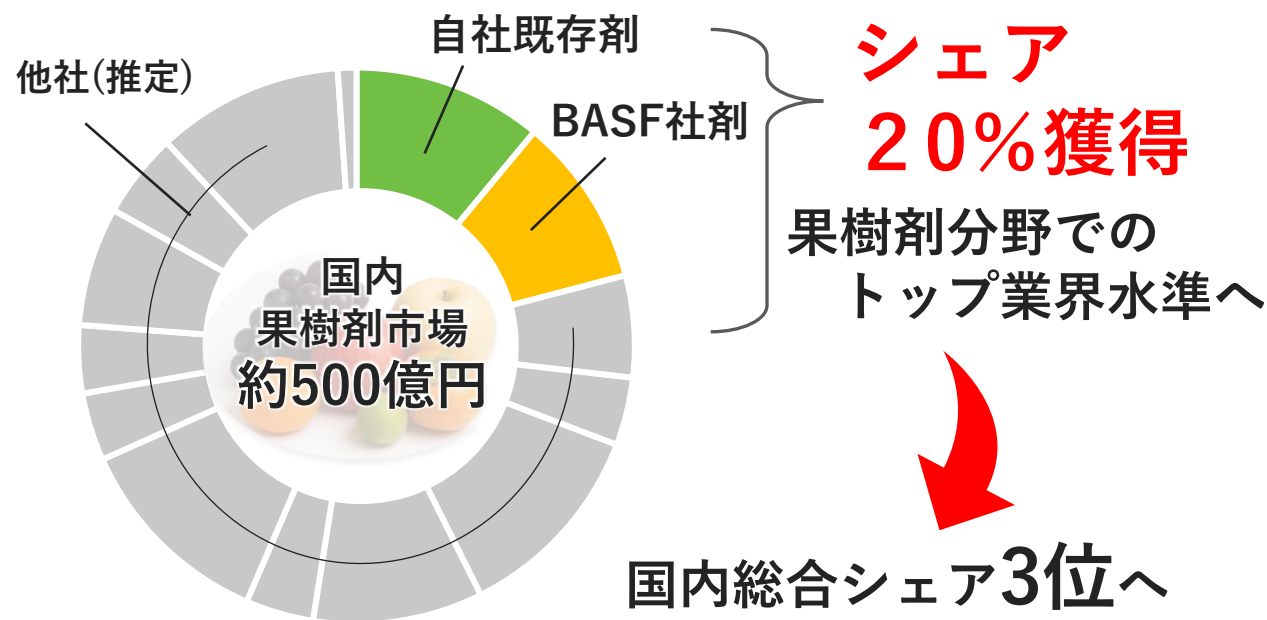
シプカム
ニチノー
ブラジル

- ・ ジェネリック品の価格競争激化による収益性低下
- ・ 高金利と為替のボラティリティの影響

- 高利益品の販売強化
- 主力剤コスト低減、ポートフォリオ最適化
- 果樹野菜分野の普及活動強化
- グループファイナンス活用等による金融費用削減

- ・ BASF社から新しく7品目の果樹向け製品の独占販売開始(2025年10月～)
- ・ 国内果樹剤市場で、既存自社剤とBASF社剤のシナジーによるシェア20%の獲得
- ・ 国内農薬市場全体での総合シェア向上 (業界3位へ)
- ・ 2022年に開始したコルテバ社剤と併せて、成熟市場の日本で販売拡大に成功(年平均6.2%成長)

BASF果樹向け製品独占販売開始



企業価値向上策③ 研究開発の強化（シベンゾキサスルフィルの進捗）

シベンゾキサスルフィル(CBX)の特長

●幅広い害虫種に対して高い殺虫活性を示す

園芸作物（specialty crop）の栽培上問題となる、チョウ目、カメムシ目、コウチュウ目、ハエ目といった広範囲の害虫に高い効果を示し、汎用性が高い殺虫剤



●既存剤に対して感受性が低下した害虫種に有効

新規作用性を有し、既存剤に感受性の低下した害虫に対しても有効、作物の安定生産に貢献できる

●浸透移行活性が高く、土壌処理効果を示す。

セルトレイ灌注※処理での実用性が確認されており、利便性の高い害虫防除剤として、生産者の省力化にも寄与する

2025年；登録申請完了



日本；売上計画 20億円
韓国；売上計画 4億円

インドでの登録申請予定
(2026年度)

2028年以降；登録認可/上市（予定）

市場性のあるその他の国や地域で評価を進め、登録国/地域・対象作物・使用方法をさらに拡大。

ピーク時売上高目標；50億円以上

※「セルトレイ灌注」:育苗トレイ(プラスチックの小さなマス)で育てた苗に液体の薬剤を注ぐ処理。

レイミー×Z-GIS 連携ソリューションの展開



- ・スマホアプリで病虫害雑草、農作業等を手軽に記録
- ・既に連携済みであるクボタ社をはじめ連携ソリューションを強化

メコンデルタ低炭素米プロジェクトへの参画



環境貢献：GHG削減プロジェクト



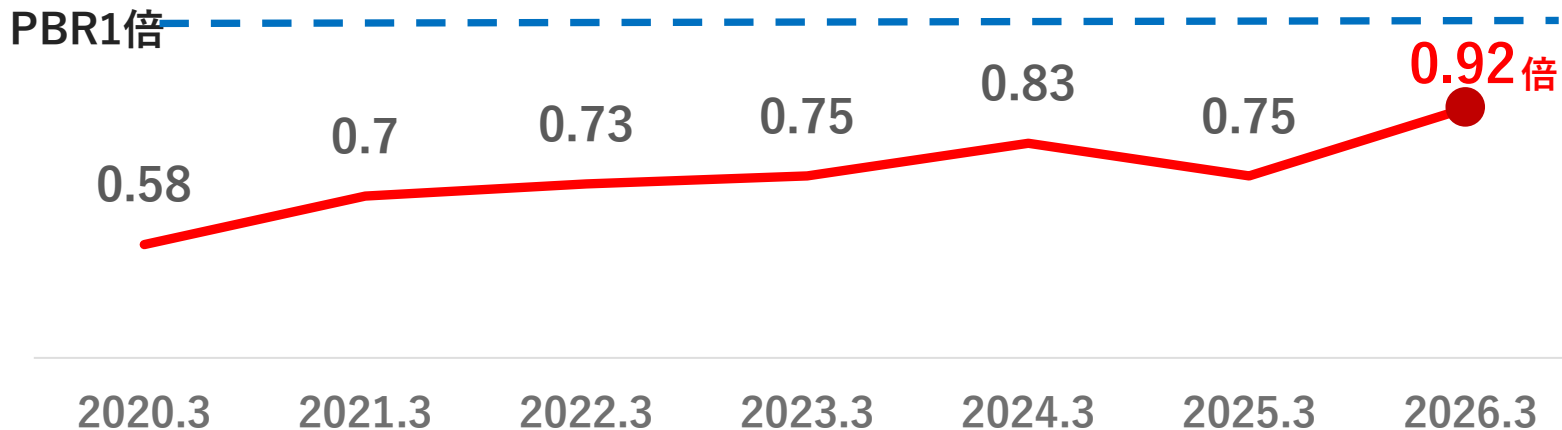
- ・メコンデルタ地域の農業協同組合での「AcroSeeker」※活用を推進
- ・農薬使用量の最適化を通じ、低炭素米生産によるGHG削減に貢献

製造・物流現場の衛生管理向け 新ブランド「AiPics」始動

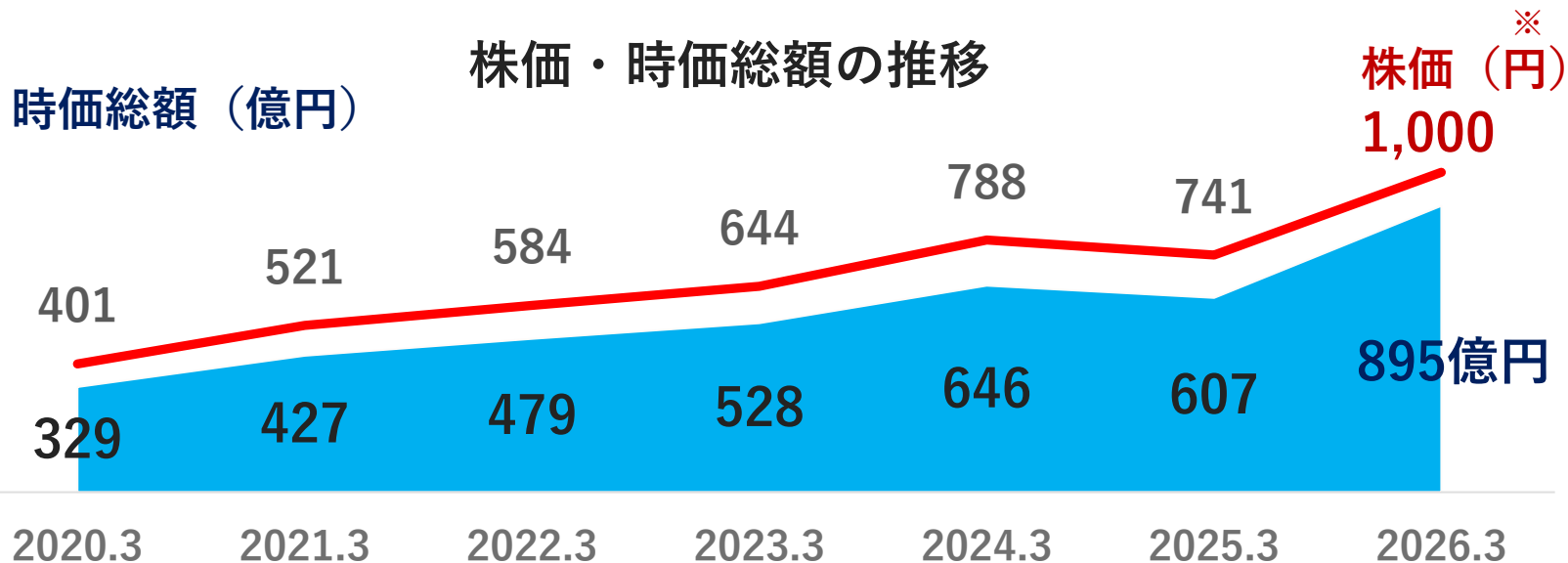


- ・スマホ撮影で飛翔・歩行昆虫の迅速なAI同定・計数
- ・グラフやマップ表示で異物混入リスクの見える化・傾向分析

PBRの推移



株価・時価総額の推移



企業価値向上策

- 更なる市場評価の獲得に向けて
2026年度予算を確実に達成するとともに、PBR向上を意識した企業価値向上策を実施する。

ROEの向上：利益率の改善、株主還元率の向上、政策保有株式の縮減等

- 持続的な成長期待の獲得
新たな価値創造やサステナブルな社会への貢献を通じて、未来に対する成長期待を高める

※株価は各期末（3月31日）の終値。

ショートドラマ(全4話)「農薬GIRLと、オーガニック彼氏」公開!

主力の農薬事業へのイメージ向上を目的に、農薬の社会的役割と研究開発の現場視点を織り込んだショートドラマを制作し、SNSで配信しました。今後も多様な情報発信を通じて当社事業の社会的理解を広げ、持続的な企業価値向上に取り組めます。



https://www.nichino.co.jp/corporate/page_20104.html

こちらのQRコードまたはURLより
ぜひご視聴ください

ログミーFinance（決算説明 会書き起こし記事配信）

決算説明会 × 投資家

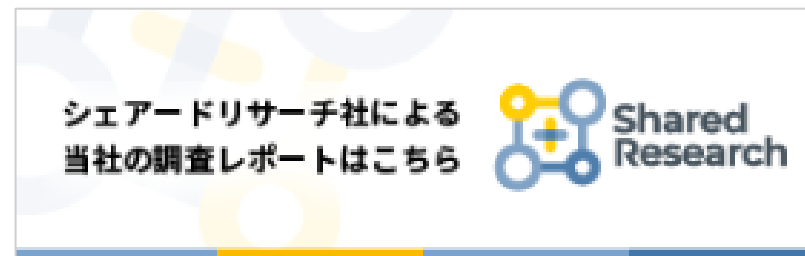


決算説明会（質疑応答含む）の和英での全文書き起こし記事を、個人投資家や国内外の機関投資家に配信するサービスを導入し、幅広い投資家にアプローチ。2026年3月期中間決算よりスタート。

[ログミーFinance | 【決算説明会書き起こし】
【IRセミナー】を投資家にお届け - ログミー
ファイナンス](#)

こちらのURLよりぜひご覧ください

Shared Research（レポート）



企業分析を行う（株）シェアードリサーチの作成の当社レポート。第三者目線での調査・分析に基づいて作成されているレポートであり、投資家の皆様の投資判断のご参考になるものと考え2025年より導入。

<https://sharedresearch.jp/ja/companies/4997>
こちらのURLよりぜひご覧ください



V. 質疑応答

代表取締役社長	岩田 浩幸
常務執行役員 経営企画本部長 兼 管理本部長	高橋 史郎
常務執行役員 研究本部長 兼 海外営業本部長	元場 一彦
執行役員 経営企画本部副本部長	藤田 恭浩
管理本部財務・経理部長	古賀 幹和
管理本部総務・法務部長	吉岡 正樹

ご参考資料

国内グループ会社主要業績（業績予想対比）

（単位：百万円、％）

		26年3月期	26年3月期	差異	増減率
		実績	業績予想 <small>（2025年11月10日公表）</small>		
日本農薬	売上高	57,361	57,577	△ 216	△ 0.4
	営業利益	4,092	4,035	56	1.4
	当期純利益	4,619	4,396	222	5.1
ニチノサービス	売上高	4,240	4,278	△ 38	△ 0.9
	営業利益	184	189	△ 5	△ 2.5
	当期純利益	105	106	△ 2	△ 1.1
ニチノ緑化	売上高	2,297	2,258	38	1.7
	営業利益	73	56	16	29.8
	当期純利益	49	35	14	39.9
日本エコテック	売上高	1,081	1,018	62	6.2
	営業利益	103	67	35	52.9
	当期純利益	69	45	23	52.5
アグリマート	売上高	2,863	2,693	169	6.3
	営業利益	428	314	113	35.9
	当期純利益	279	211	68	32.5

海外グループ会社主要業績（業績予想対比）

（単位：百万円、％）

		26年3月期	26年3月期		増減率	売上高 為替換算レート(円)	
		実績	業績予想 (2025年11月10日公表)	差異		米ドル	台湾ドル
ニチノーアメリカ	売上高	17,981	15,822	2,159	13.6	米ドル	
	営業利益	2,483	1,411	1,071	76.0	26.3予想	145.00
	当期純利益	2,369	1,075	1,294	120.3	26.3実績	151.41
日佳農葯	売上高	355	388	△ 33	△ 8.5	台湾ドル	
	営業利益	△ 50	△ 12	△ 38	—	26.3予想	4.50
	当期純利益	△ 36	△ 5	△ 30	—	26.3実績	4.90
ニチノーインドア	売上高	10,133	10,530	△ 396	△ 3.8	インドルピー	
	営業利益	398	434	△ 36	△ 8.4	26.3予想	1.70
	当期純利益	112	60	51	84.3	26.3実績	1.72
シプカムニチノーブラジル	売上高	22,053	22,818	△ 765	△ 3.4	ブラジルリアル	
	営業利益	1,570	1,642	△ 71	△ 4.3	26.3予想	26.00
	当期純利益	△ 751	118	△ 869	—	26.3実績	27.19
ニチノーヨーロッパ	売上高	14,789	13,846	942	6.8	英ポンド	
	営業利益	1,986	1,889	96	5.1	26.3予想	190.00
	当期純利益	1,611	1,553	57	3.7	26.3実績	202.37
ニチノーベトナム	売上高	1,276	1,104	171	15.6	ベトナムドン（100ドン）	
	営業利益	76	22	54	242.5	26.3予想	0.60
	当期純利益	57	8	48	556.1	26.3実績	0.61



2026年3月期 決算説明会

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、既知及び未知のリスクや不確実性及びその他の要素を内包しており、これらの目標や予想の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行なって下さいますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

日本農薬株式会社

2026年5月28日

